

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3 4 7 0 1 0 2 8 8 4
法人名	社会福祉法人 可部大文字会
事業所名	グループホーム(山まゆ)フルーツハウス
所在地	広島市安佐北区大林町根谷162番地の2 (電 話) 082 - 818 - 6011
評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4 - 46 - 4
訪問調査日	平成20年10月27日

【情報提供票より】(20年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 6 月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6 人, 非常勤 1人, 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 階 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 有りの場合 償却の有無		有 / 無
食材料費	朝食 280 円 昼食 450 円 夕食 450 円 おやつ 200 円 または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中岡内科・穴村歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム山まゆは、山に囲まれ小川も流れており静かな環境にある。同一グループには、特養、高齢者生活支援ハウス、ショートステイ、デイサービス、ヘルパーステーションが併設された施設である。山まゆのように気高く、その人らしくをモットーに心がけている。施設長の方針は、事業所も地域住民の一員であり、地域に溶け込み、地元活動への参加や多様な地域資源の活用等、地域を支え、支えられる関係を構築し、一人ひとりの尊厳を支えることに力を入れる。地域からも期待されているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	会議を通して、地域で求められていること等を話し合い、家族介護教室、高齢者のための講座等に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の質の向上に力を入れ、外部研修の参加、施設内研修で専門知識、技術の向上に努められた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、運営推進会議において、現状報告だけでなく、地域全体で助け合ったり、支え合ったりできるような話し合いを進めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月、お便りを発送したり、年2回「ひだまり」を発行して、入居者の様子を知らせている。月1回のフロア会議にいろんな意見を出し合い、話し合っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流は、盛んであり、福祉フェスティバルの開催、女性会のボランティア、中学生の職場体験の受け入れ、保育園児との交流等、積極的に取り組んでいる。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

☐ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が自立した生活ができるように援助する。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼において、管理者より理念の訓示があり、職員は理解して、日々それを生かして実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流は密にされており、地域交流福祉フェスティバルを開催されたり、地域の保育園児を迎えたり、運動会参加等を行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	積極的な姿勢で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、入居者、家族、区担当者、地域包括センター長、民生委員、施設長、職員の参加があり、意見等をフロア会議に提出して検討している。		

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区長や区担当者に定期的に訪問し、情報の共有を行っている。又、家族介護教室等の活動を通して高齢者支援をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、お便りを発送して、日頃の暮らしぶり等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が運営推進会議に参加したり、ホームに来所した時等に意見を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	山まゆの中(特養・ディーサービス)で 職員の異動はあるが、行事等で馴染みの関係は できている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを積極的に支援している。(介護福祉士・介護支援専門員)外部研修に計画的に参加させている。	○	夜間学校に通っている職員もおられ、積極的に支援している。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHとの行事の交流を行っている。3ヶ月に1回、情報交換会を実施している。	○	クリスマス会に他のGHからの訪問あり。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同施設のディサービスやショートステイを利用され、場の雰囲気や職員に馴染んでもらう。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は家族である。との思いで共に支え合い、家族のような関係を作る努力が見られる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めている。又、一人一人の尊厳を守る配慮をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリングを月1回実施している。本人、家族、職員間で話し合いをして、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直し(6ヶ月、3ヶ月の方もいる)をしているが、状態の変化に応じて、その都度、見直しをしている。		

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望に応じて通院介助や買物等の外出支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(中岡内科、穴村歯科)の往診があるが、入居者指定の医院は出向いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師は施設にあり、胃ろう等の医療行為もできる体制にある。入院、自宅に帰られる人もある。特養でのケアを希望される方はその支援をしている。	○	最後まで人間らしくあることが出来る。又、出来る支援について、現在、準備中である。
5. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者と職員はよく会話をしている。一人ひとりの状態を把握し、それに合わせた対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護をしてあげるのではなく、入居者が努力されるように上手に支援をしている。		

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞いて、献立を立てている。その日によっては、急に内容を変更されることもある。(寒い日には鍋物等)		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回、入浴している。夏は3回。希望すれば毎日でも入浴を楽しむことができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備、後片付けを積極的にされている。午前中は散歩をしたり外出することもある。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物に職員と一緒に出かけている。もみじ狩りや芸能大会の参加等、出かける機会が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中は鍵をかけず常時、見守り体制ができています。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、山まゆ全体で防災訓練をしている。消防署が計画した防災研修にも参加している。	○	地域の人々の協力を得られるように、きめ細かなネットワーク作りを構築中である。

グループホーム(山まゆ)フルーツハウス

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に食事量、水分補給、バイタルチェック、昼夜の介護記録、リズム体操等、細やかな記録を摂っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	体操したり、おやつ、洗濯たたみ等、普通の家庭の居間という感じで利用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットは備え付けであるが、他のタンス、小物等は使い慣れた物を居室に持ち込まれている。		